

および年度計画の達成状況「Ⅳ」に関連する年度計画項目

の抜粋

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

第1 教育に関する目標

No	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、 進捗状況に関するコメントなど
23	経済学研究科において、既に一定の学術的成果を上げている社会人を対象とした博士後期課程における「早期修了プログラム（在学1年で経済学博士学位取得）」の履修生を引き続き受入れるとともに、今後とも、当該プログラムの下で研究を進展させることで博士学位の取得をめざす社会人学生の発掘に努力する。また、博士前期課程においてリカレント教育推進のため、行政経験者や企業人による実務教育の継続を図る。 【中期計画1（2）イ（ウ）】	理事（教育・学生）、教務企画室 【取組実績】 ・進学に際しての学術的要求水準が高いこともあり、今年度は「早期修了プログラム」の申請者はなかった。 ・行政経験者などの実務経験者や企業人による実務教育の継続に関しては、企業人（中部産業連盟）による「経営管理」の講義を開講し、13名の博士前期課程学生の受講者があった。 ・平成28年度から、医学研究科および薬学研究科とともに研究科横断的な「医療経済マネジメントコース」を開設し、特に医療関係者の経済学・経営学の知見の修得による幅広い見識を持つ専門家を養成することとした。このような医学・薬学・経済学・経営学の融合したコースは日本初である。第1回社会人入試で3名、第2回社会人入試で6名がそれぞれ合格した。なお、入学定員は第1回5名、第2回若干名である。 ・社会人学生の更なる発掘に向け、学位について、従来博士についても修士についても（経済学）の学位のみであったが、平成28年度入学者からは経営学専攻において経営学分野の研究を行った場合には（経営学）の学位を取得できることとした。 ----- 【取組の成果、課題】 ・平成28年度については早期修了プログラムへの履修申請がなかった。プログラムの性質上、多くの履修者は期待できないが、今後も、既修了者にそれぞれの周囲にある可能性のある者に対する進学・申請の勧誘を依頼するとともに、研究科としても広報活動等を通じて継続的に申請者を発掘していく必要がある。 ・行政経験者などの実務経験者や企業人による実務教育は、理論的な教育とともに、研究科の今後の教育・研究に向けて重要となるが、今後とも、経験豊かな講師を確保し、継続的に実施していく必要がある。 ・実務教育として「医療経済マネジメントコース」を開設することができた。今後も、「学部・研究科未来プラン」に掲げたように実践的なコースの開設に向けて検討を重ねる必要がある。 ・社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、文部科学省が認定する「職業実践力育成プログラム」に、本学から「医療経済マネジメントコース」及び「医療・保健 学びなおし講座」を申請し、12月に認定を受けた。	※資料提出（参考資料集 56 頁、58 頁）

第2 研究に関する目標

No	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、 進捗状況に関するコメントなど
66	<u>学内の競争的資金である特別研究奨励費制度を見直し、国の科学研究費獲得や将来発展が期待できる先端的研究の活性化のために、研究費の一部を活用する</u> ことで、本学独自の学術研究を支援する。 【中期計画2（2）】	理事（研究・国際）、学術課 【取組実績】 ・資金の面でも本学独自の学術研究を支援するため、特別研究奨励費の今年度予算額を前年度より約9,000千円増額し、40,000千円とした。 ・科学研究費助成金事業については、特別研究奨励費にて計30件18,500千円の研究費を配分した。 ・将来発展が期待できる研究の活性化のため、新たに「先端的研究の活性化」区分を設け、特定の先端的研究の共同研究推進を目指した研究グループに対し、大型の研究費支援（1件7,000千円）を行った。（研究課題名：エピゲノム情報制御機構の解明と臨床応用） 【取組の成果、課題】 ・「先端的研究の活性化」区分に採択した研究課題については、別途、平成27年度日本学術振興会「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム」にも採択（27年度25,000千円の補助）されており、今後、当該分野における研究の発展、ひいては本学の研究力強化へつながることを期待することができる。	

第3 社会貢献等に関する目標

No	年度計画	計画の実施状況等	達成状況		評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど
			自己評価	委員会評価	
69	<u>各研究科・学部における地域連携事業の推進等を担う「地域連携推進員(仮称)」を新たに置き</u> 、市民等のニーズと学内のシーズとのマッチングを推進する体制を強化するとともに、市民公開講座を始めとした公開講座を通じた教育研究成果の還元を推進するため、大学ウェブサイト等での開催案内・開催報告の充実化に取り組む。 【中期計画1（1）】	学長補佐（社会貢献・広報）、学術課 【取組実績】 ・4月に、地域連携に関する事業の推進及び調整に努めるとともに、その所属する部局における連絡調整を行うことを目的とし、各研究科・学部にて地域連携推進員を新設した。 ・社会連携センターの概要や手続き、本学の社会貢献活動を掲載したパンフレットを作成し、名古屋市各局・区役所、図書館などに配付した。 ・新たな受講者層を開拓するため、10～11月に乳幼児の子育て世代を対象とした特別市民公開講座「大学発！ハッピー子育て講座」を企画・実施し、延べ118人が受講した。 ・「知の広場」の発行（8月、2月）にあたり、本学でいつどのような講座が開催されるのか分かりやすく伝えるため、講座一覧のページを改善するなど工夫した。 ・市民公開講座を始めとした公開講座を大学全体で128件開催し、延べ8,681人が受講した。 ・本学ウェブサイトで開催案内を行ったイベントについて、同サイトでの開催報告の充実化に取り組んだ。 【取組の成果、課題】 ・新たに実施した特別市民公開講座では、20～40歳代が受講者の95%を占め、若い世代の受講者を獲得できた。 ・本学ウェブサイトで開催案内を行ったすべてのイベントについて、開催報告を行うことができた（前年度の開催報告掲載	IV		※資料提出（参考資料集81頁、89頁）

		率 33.8%) 。			
--	--	------------	--	--	--

第4 大学の国際化に関する目標

No	年度計画	計画の実施状況等	達成状況		評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど
			自己評価	委員会評価	
75	中期計画に定める目標数値を達成するよう新たな締結大学を検討する。一方、現協定校とは、 <u>本学の海外拠点校となる大学を検討し、共同研究や合同シンポジウムなどを通じてより交流の充実を図る。</u> 【中期計画 2】	理事（研究・国際）、学生課 【取組実績】 ・7月にフィリピンのサント・トーマス大学を含む複数の協定校などから研究者を招へいし、本学にて国際シンポジウムを開催した。その際にワークショップを開催し、今後の各大学との交流活動や新たな大学間交流協定の締結について協議した。 ・11月にトルコのハジェテペ大学へ訪問団を派遣し、大学間交流を深めるとともに、コンタクトポイント（海外拠点）の設置、Erasmus Plus 協定の推進や交流分野の拡充などさらなる交流活動について協議を行った。 ・協定校については、中期計画に定める目標数値の 25 校はすでに達成し、3 月に 27 校目となる台湾の文藻外語大学と締結した。 ・11月にハジェテペ大学とコンタクトポイント設置に係る合意書を取り交わしたことを踏まえ、3 月にスカイプを利用した合同開所式を開催し、両学にコンタクトポイントを設置した。 【取組の成果、課題】 ・本学初めての海外拠点設置により、ハジェテペ大学との交流がさらに密になり、本学における国際交流推進の気運を醸成することができた。	IV		※資料提出（参考資料集 103 頁、105 頁、106 頁）

第5 附属病院に関する目標

No	年度計画	計画の実施状況等	達成状況		評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど
			自己評価	委員会評価	
79	新たな制度（教授（診療担当）、病院助教、薬学部特任助教）を導入し、診療体制の充実を図る。 【中期計画 1】	理事（病院）、病院 【取組実績】 ・教授（診療担当）を 7 月に 1 名（次世代医療開発医学分野）、9 月に 3 名（先進急性期医療学分野）採用した。 ・病院助教を 40 名採用した。 ・薬学研究科特任助教を 6 名採用した。 【取組の成果、課題】 ・新たな制度に基づく人員の採用によって診療体制の充実を図ったことで、平成 26 年度は入院外来合わせて延べ 682,719 人であった患者数を今年度は 694,940 人と 12,000 人以上増加させることができた。	IV		
92	地区医師会、歯科医師会、地域医療機関、介護事業者と地域医療連携について意見交換を行う等、関係強化を図る。 【中期計画 9】	理事（病院）、病院 【取組実績】 ・医師が事務職員とともに地区の医師会（7 回）、歯科医師会（7 回）の訪問を行った。 ・地域医療機関との関係強化のため、患者紹介元医療機関（18 施設）及び転院先医療機関（9 施設）の訪問を実施した。 ・地域医療機関との連携強化を目的とした「登録医制度」を 1 月から開始した。 ・11 月に第 1 回地域医療連携フォーラムを開催し、登録医制度についての案内と 3 診療科の医師による講演会を行った（52	IV		

		医療機関 75 人参加)。 ・2 月に当院医師と地域医療機関の医師との顔の見える連携の強化・推進を目的に第 2 回地域医療連携フォーラムを開催した (71 医療機関 107 人参加)。 ・12 月に開催された「名古屋市昭和区・瑞穂区で働く看護職交流会」において大学病院における退院支援について発表を行い、地域の看護職と情報交換を行った。			
		【取組の成果、課題】 ・地域医療機関からの患者紹介率が、平成 25 年度：55.2%、平成 26 年度：70.4%、平成 27 年度：78.9%、地域医療機関への患者逆紹介率が平成 25 年度：48.3%、平成 26 年度：63.9%、平成 27 年度：76.4%と向上し、地域医療機関との診療連携の強化を図ることができた。 ・地域の医療機関や介護事業者等との意見交換や情報共有を行うことで、早期退院に向けた支援の充実を図ることができた。			

Ⅳ 自己点検・評価、情報の提供等に関する目標

No	年度計画	計画の実施状況等	達成状況		評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど
			自己評価	委員会評価	
115	引き続き、プレスリリースについて、メディア・コンテンツに応じたきめ細かな情報発信を行い、掲出件数の増加を図る。 【中期計画 第2 2】	学長補佐（社会貢献・広報）、企画広報課 【取組実績】 ・本学の情報を幅広く発信するために、内容に即した記者會・クラブを選択しプレスリリースを実施した。今年度は「瑞穂フォーラム」や「ホームニュースしょうわ」といったミニコミ誌にも情報提供を行い、地域への情報発信にも力を入れた。 【取組の成果、課題】 ・地道できめ細かな資料提供により、メディアへの掲出件数が前年比で約 38%増加した。（平成 26 年度 805 件、平成 27 年度 1,113 件）	Ⅳ		